

地域に根ざしたフォレスター活動の定着に向けて

～民有林との連携強化～

網走西部森林管理署

課題解決に向けて

課題

地域林業の振興・再生に向けて民有林・国有林が連携した取り組みが求められている。国有林は地域林業の相談役との認識が、町や森林組合には広まってきているが、指導林家や一般林家に対する認知度は低く、民有林との連携がなかなか進まない。

目的

地域の関係機関（道、町、森林組合、事業体等）と連携する体制の構築と情報の共有化。

平成27年度実施状況

1 地域一体となつての取り組みへ

地域民有林との情報共有化・連携強化し体制の構築に向けて、遠軽町林業・木材産業活性化懇談会（国有林）と遠軽地区林業推進協議会（民有林）との組織の一本化が必要とされ、双方の事務方において理解が得られ、平成28年5月の協議会総会で正式に遠軽地区林業推進協議会へ一本化することとなった。

2 地域での勉強会の開催

町や林業関係者との連携、情報共有を図るため勉強会として、当署とオホーツク総合振興局西部森林室遠軽事務所の共催による、有用広葉樹の特徴等の勉強会を民有林関係機関を参集して、平成28年3月25日に冬芽・葉痕、樹皮を中心に森林組合、町の林務担当者等、当署の若手職員の基礎知識習得を目指し実施した。

3 民国森林施業技術交流会の開催

民有林への情報発信を意識した幅広い参集範囲で、国有林の技術を活かした「民国森林施業技術交流会」を開催し、生田原国有林において、伐採から植付まで一貫して作業する「一貫作業システム」の手法や「コンテナ苗」を活用した植林方法、木材搬出のための「路網の配置と作設」をテーマとした現地検討会を、指導林家、青年林業士を含め約70名の参加を得て実施した。

意見交換では「コンテナ苗の活着率」「一貫作業の契約方法」「コスト縮減について」等の質問がされるなど、低コストな森林整備についてより深い理解が得られた。

4 QGIS勉強会の開催

国有林と民有林との地理情報を統合し、効率的な森林施業の検討や森林情報の共有の為、オホーツク総合振興局西部森林室遠軽事務所と連携しQGISの勉強会を開催した。

遠軽地区森林組合会議室において、民有林関係機関を参集し平成27年10月に実施し「使いこなせば業務の軽減になる」「施業の履歴も記録できる」等の意見もあり、今後も継続して実施していくこととした。



今後の取組

○ QGIS勉強会を継続し、地域の森林基本情報の一元化と共有を図り、効率的な森林整備や路網の連携等を検討。

○ 森林室と連携しカラマツハラアカハバチ被害調査継続、地域分担した予察調査を実施、その情報を統合し地域に発信。

○ 地域民有林との連携体制を元に、地域の課題や問題点等を把握し具体的な支援に結びつけていく。